

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	みんなで「かもしれない運転・歩行」！！
事業主体 (連絡先)	長野市交通安全推進会議 (長野市地域活動支援課)
事業区分	(4)安全・安心な地域づくり (1)地域協働の推進
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	659,010 円 (うち支援金: 441,000円)

事業内容

長野駅前での交通安全啓発活動に参加し、子どもや高齢者の行動特性をドライバーに伝えることを目的とした啓発チラシを配布した。

あわせて配布にあたり、長野市交通安全推進マスコットキャラクター「カモシレ」の着ぐるみを活用し、カモシレの認知度の向上を図った。



【 長野駅前での交通安全啓発活動 】

【目標・ねらい】

- ① 「カモシレ」の認知度の向上
- ② 「かもしれない運転・歩行」の意識づけ

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

人が多く集まる長野駅前で、長野県警のマスコットキャラクターの着ぐるみとともに参加したことで、より多くの注目を集めることができた。

また、参加者が SNS でカモシレと一緒に撮影した写真を挙げるなど、カモシレの認知度の向上に寄与したと思われる。

※自己評価 【 B 】

【理由】

予定どおり、着ぐるみ及び啓発チラシを作成できたため

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後、交通安全運動や、教育講師派遣等交通安全の啓発活動を実施する際に、引き続きカモシレの着ぐるみや今回作成したチラシを活用しながら、「かもしれない運転・歩行！！」について継続的に周知を図っていき、カモシレの認知度を徐々に高めていきながら、同時に「かもしれない運転・歩行」についても啓発していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	須坂市明徳町「次世代を創り未来へ歩む地域づくり」事業
事業主体 (連絡先)	須坂市明徳町 区長 稲田恭久 携帯電話 090-3142-7170 自宅 026-246-0481
事業区分	安心・安全な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	925,958 円 (うち支援金: 636,000 円)

事業内容

明徳町50周年を契機とし、地域全体で「これからの明徳町のまちづくり」を考えるイベントを実施。

(1) 50周年記念式典及び講演会

- ・日時 令和4年7月10日 12時～16時
- ・場所 須坂市メセナ小ホール
- ・規模 明徳町区民他 190名
(参加者: 区民・自治体・企業他)
- ・実施内容

記念式典: 明徳町50周年記念式典

講演会: 講師 教育評論家

尾木直樹先生 (70分)

大人も子どもも居心地の良い町づくりを目指して」



(2) タイムカプセル掘り出し及び埋め込みイベント

- ・日時 令和4年8月14,15日 2日間に変更
(両日とも 10:00～12:00に実施)
- ・場所 明徳町公会堂庭
- ・規模 参加者: 役員・区民・子ども他
合計 30名 (コロナ禍の為、人数限定規模縮小)
- ・実施内容 (掘り出し)
タイムカプセルは、コロナ禍の為少人数で、式典を行い前日に掘り出した。
- ・実施内容 (開封式及び埋め込み)
開封式 式典を行い20年前の代表に当時入れた手紙を読んでもらった。

その後、外部にて子ども達の代表による埋め込み式を実施した。

(株)グーライト・須坂新聞にて取材。



事業効果

① 区民相互の一体感

50周年記念式典に当たり、実行委員会を2年前に立ち上げ議論を重ね、今回事業をできた事により、一つの事業をやり切ったという一体感が強く生まれた。我々の団地は新興住宅であるため、出身も年齢もばらばらな人が多く、協力体制がとれなかったが、今回の事業の中で委員会の代表

【目標・ねらい】

- ① 区民相互の一体感
- ② 若い世代への継承
- ③ 明徳町の外部へのPR活動
- ④ UIJ ターンへの期待

(別記様式第12号) (第3の8関係)

者を、年代別に集めた事により、色々な意見等が活発にあり、目標に向かって全員で達成する事ができた。

② 若い世代への継承

尾木先生の講演の中で、子育て世代へのメッセージが多く込められており、「新しい町づくり」への意欲が出て来たようである。50周年を機会に50年以降の町づくりを若い世代と、一緒に考えていく事により世代交代ができそうである。

③ 今回、メディアが2社取材を行ってくれた事により、須坂市民だけでなく、小布施地区・高山地区にもPRが多くできた。また、企業関連へのPRも出来たため、「明德町に住みたい」という方が出てくればありがたい。

④ UIJ ターンへの期待

今回の式典により、親から子へと式典・講演会などの情報が伝わり、「故郷へ戻る」という選択肢に期待している。コロナ禍の為、夏祭りなどでのPRができなかったが、区民に配った「明德町の歩み」から懐かしみ、子ども時代を思い出してくれればありがたい。

今後の取り組み

式典・講演会については、予定通りでき満足はしているが、式典が終わってからコロナ禍が大きくなり、区民と祝う予定であった「夏祭り・子ども祭り」などが中止する事になり、帰省客にたいする、PR活動及び子ども達の意見を聞く会を実施できなかった事が残念である。創立51年に向かい、今回できなかった事業を継続していく。

「安全・安心」な町づくりのため、区・公民分館・育成会が一致団結して歩んでいく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

※自己評価【 A 】

【理由】

小さな町で行った式典・講演会としては、参加して下さった皆様より、期待して以上の賞賛を頂き、役員一同感動しました。ご協力頂いた皆様に感謝です。これを機会に他の町でも様々なイベントを企画し、元気ある町づくりができれば幸いです。

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	学生連携による被災地復興支援と地域防災事業
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人災害共生支援機構 from
事業区分	安全・安心な地域づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	998,293 円 (うち支援金: 798,000 円)

事業内容

○復興支援活動

台風19号災害において被災した地域の写真を洗浄し、思い出を守る活動を通して、復興に寄与するとともに、災害ボランティアの大切さを伝える。

○学生防災リーダー養成事業

6回のカリキュラムを通して、地域防災や災害時支援を担う若者を増やすことを目的に、学生防災リーダー養成の第2期を実施する。

昨年度の養成事業において、学生防災リーダーとなった学生が主体的に防災活動に参加する機会を創る。



【足湯・傾聴活動を実践】

【目標・ねらい】

- ①被災写真の返却を継続的に行う。
- ②復興支援に関わるVoを増やす。
- ③地域防災の担い手を育成する。
- ④昨年度の修了者が主体的に関わる場を創る。

事業効果

○復興支援活動

長野地域の被災家屋から見つかった写真を洗浄する活動により、被災した地域に住む住民の方の思い出を守ることができた。

活動について報道等に取り上げていただき、ボランティア活動が広がったり、復興途中の家屋から見つかった新たなニーズを発見したりすることができた。

○学生防災リーダー養成事業

学生防災リーダーカリキュラムの修了者は3名となった。昨年度より参加者が減少したものの、それぞれのカリキュラムでは防災や災害時のケアについて学ぶ場を創ることができた。

昨年度参加し、学生防災リーダーとなったメンバーも運営に主体的に関わる機会を創ることで、地域防災を発信する役割を保障することができ、持続的な活動へ前進した。

※自己評価【C】

【理由】

①、②は、週4日程の実施により、計画より多く行うことができたものの、学生防災リーダーについては参加者が減少した。地域防災の担い手を増やすためには、事業の改善が必要と考えたため。

今後の取り組み

今年度の事業では、元気づくり支援金助成事業として2年目の事業であった。復興支援活動は、まだまだ継続して写真洗浄を行う必要がある。また、学生防災リーダーは第1期、2期の養成を終え、メンバーが主体的に地域防災に関わる土壌を創ることができ、今後の実際に防災活動に関わる機会を創っていくことが求められると考えている。

一方で、参加メンバーの減少や復興支援活動の多さ等から、次年度は元気づくり支援金助成事業としての事業は実施せず、法人の運営基盤を強化し、安定した事業運営を行える体制を構築したい。2024年度、再度、元気づくり支援金助成事業として、3年目の事業がより発展的に行えるよう、2023年度では、今年度の事業の見直しと強化を図りたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある